



フランキー・オンライン開局!

6月21日「フランキー・オンライン」がスタートする。ハッピー・メディア・クリエイター高城剛氏率いるフューチャー・パイレーツが提供するパソコン通信サービス。CD-ROMによるソフトの無料配布、インターネットとの相互接続、CGを使ったアドベンチャーゲーム風のインターフェイスなど話題はつきないが、まだ現在は、全構想の序章でしかないという。開局直前に、高城剛氏から話を聞いた。
インタビュー：編集部



高城 剛が語るフランキー・オンラインのコンセプト



海底のホロホロスクエアという場所からイルカにメールが出せる

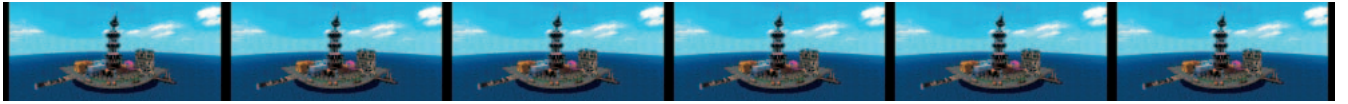


夜のフランキー・タウン



船付き場から船にのれば、別の島へ行ける

F R A N K Y



フランキー・オンラインは島

フランキー・オンラインは島になっている。フランキー・タウンというにぎやかな街があり自由に歩いて買い物を楽しんだりできる。天気や時間、季節も変わっていく。ある店に入って外に出たら夜になっていたということもありえる。自分たちがふだん生活しているリアルな風景でありながら、実社会とはまったく別の生活を味わえる可能性もある。そう、ある夜フランキー島に行って、そこも夜だときっとさびしいから、実際とは逆にしようという話もあるよ。サーバーでコントロールするから、どんなことだってできる。

ニューススタンドには雑誌が並び、街頭テレビにはコマーシャルが流れている。カフェではパソコン通信のフォーラムみたいにメニューを選んで好きなテーマの話ができる。フランキー・タワーのエレベーターで海底に行くと、イルカにメールが出せる

し、屋上に行くと、宇宙人にメールが出せる。船に乗れば、別の島へ行ける。4次元の空間も作るつもり。そこだけしか通じない言葉があってもいいかもしれない。

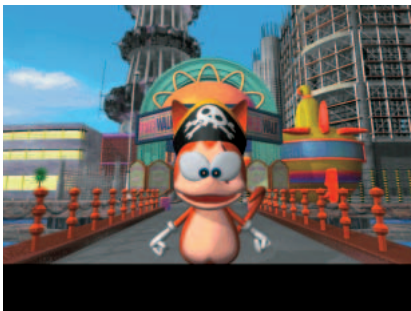


広告で実現する低料金サービス

毎月500円でサービスを提供するためには、広告が必要になる。僕はもともとテレビコマーシャルを作っていて、どうしたら違和感なく広告を見せられるかということについてずっと考えてきた。オンラインマガジンをダウンロードする間に広告を見せるというのもその1つ。通りに立っているビルボードは、インタラクティブ広告にしようと思っている。

フランキー・オンラインは、雨の日は傘の広告、晴れた人はサンバイザーの広告が出せる。サーバーから分単位でコントロールできる。それは今のテレビにはできないことでしょ。それに、不特定多数ではなく、特定の人たちにアピールできるから、テレビより確実なマーケティング戦略が作れる。広告のために情報の質が落ちるといふ危惧はないね。僕はアメリカのテレビシステムに近いと思っている。サブスクライビングにペイパービューと

(テレビとゲームの間にある新しいメディアを作りたい)



ナビゲーターのフランキー君。毎日違うウェルカムメッセージで迎えてくれる。どこにいるかわからなくなったら、画面のすみにいる彼をクリックすると、解説してくれる。



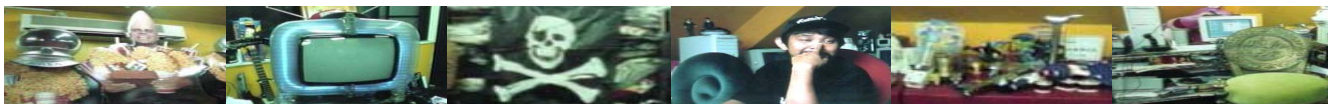
街頭テレビに近づく、コマーシャルが流れている。シーサイドにはビルボードも立っている。広告の内容は、分単位でサーバーからコントロールできる。



ニューススタンドでは音楽専門誌、ファッション雑誌、ゲームウォーカーのダイジェスト版など、全部で10誌のオンライン・マガジンを置いている。ダウンロード中は、この絵のように広告が開く。

O N L I N E





いがあるんだけど。サブスクライビングというのは、MTVのように、契約した時点でお金を払う。ペーパービューは、見るたびにお金を払う。つまらないとお金を払わない。つまり、根底にタダ、その上にサブスクライビング、さらにその上にペーパービューと3つの階層がある。フランキー・オンラインは月額500円のほかに、情報の内容によっては付加料金が必要というシステムになっている。ゆくゆくは基本料金はタダにしたい。

マスメディアとゲームの間

GUIが最もいかされるのは、コンピュータ文化ではなく、広告文化やテレビ文化だと思う。たとえば女性用の広告を作っているプロ

が考える新しいインターフェイスや商品構成というものを反映できる。シンガポール旅行で見た商品が現地より安く並んでいたら、女性もパソコン通信を始めるでしょう。ここでアピールされるのは、安くてわかりやすいこと。これまで大手メーカーが運営してきたパソコン通信は、高くてよくないから女性や低年齢層は入ってこれなかった。人件費や交際費もかかっているでしょう。アイコン操作で有名なアメリカのパソコン通信サービス「アメリカ・オンライン」は安くてわかりやすいから成功した。最近マイクロソフト・ネットワークを見たけど、本当につまらない。

日本のパソコン通信は、10年間変わらなかった。だから僕はこれを始めた。テレビは視聴率20%で1500万人、パソコン通信はせいぜい1150万人。この間は空いている。テレビは誰でも毎日見る。朝も、夜も、ラーメン屋でも見る。でも、ゲームは毎日やらない。この間も同じで、フランキー・オンラインはここに位置したいと思う。アップ・トゥ・デートにゲーム感覚でニュースが入ってくるテレビと言えるかな。そういう意味では、新しいメディ

アを作っているというつもりでやっている。

「パーソナルライフガイド」

フランキーはオンラインビジネスのように見えて、実はオフラインとオンラインの両方なんだ。たとえば、今までのパソコン通信だと、僕たちが新しいことやりましたと言っても、ユーザーはつながなければわからない。これではインタラクティブでも何でもないと思う。フランキーの場合、新しいCD-ROMが届いたら、利用者はすぐに新しくなったとわかる。このオンラインとオフラインの組み合わせが一番のポイントだと思う。

インターネットにはヤフー（Yahoo）っというネットサーフィンのためのナビゲーションシステムがあるけど、僕らが考えているのはオフラインのためのディレクションシステムだ。フランキーには、5つまでのキーワード、たとえば中山美穂とか、マルチメディアとか、インターネットとか、入れておくことができる。そして、中山美穂をク



ポストオフィスに行くと、電子メールを送ることができる。フランキーオンライン内なら通常の国内メール、インターネット経由メールは国際メール。ただし、特別な料金はいらぬ。

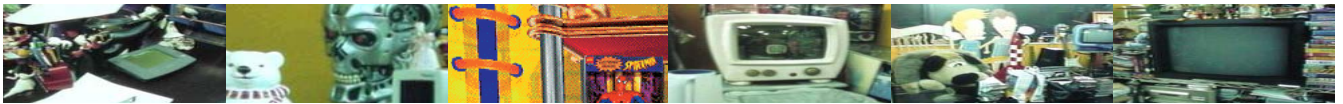


サンタクロースマシンはおもちゃ屋さん。商品をドラッグしてかごに入れ、レジに持って行ってカード番号などを入力すると、翌日発送してくれる。1日限りの特選品もある。こうした店舗は40店くらい。



スポーツセンターにあるボクシング場では、同時にアクセスしている人とリアルタイムでボクシングができる。チャンピオンカードがもらえると持ち時間が長くなる。観戦ももちろんOK。

FRANKY



リックすると、毎日中山美穂に関する項目が全部出てくるわけ。それはネットされていない情報、たとえば武道館のライブの情報とかがちゃんと出てくる。マルチメディアをクリックすると、日経の何面に出ているということがわかり、新聞を開く。中山美穂の番組が9時から放送されるとわかる。ビデオのスイッチを入れる。というように、フランキー・オンラインから朝が始まるようになればいい。それは、テレビと僕らの好きなものの中に位置する、きわめてパーソナルなものだと思う。このサービスは「パーソナルライフガイド」というシステムで、サポートするのは9月21日スタート予定のバージョン1.5から。



未来イメージは「かばん」になる

6月に始まるサービスは、5年ぐらいかけて実現しようとしているフランキー・オンライン構想の10分の1であって、始まりの部分だけ。年末の2.0から本格スタートという感じです。

フランキー・オンラインの未来のイメージは、「かばん」だと思っている。話題になっているゼネラル・マジック社のマジックリンクも、僕は古いと思っている。デスクトップは机という、この考え方がまづ古い! モバイルの時代に机はないでしょう。やっぱりかばんですよ。せつかくネットワークがあるんだから、かばんに携帯電話や名刺を入れて動かなくちゃね。名刺を例に取ると、僕らは「Eカード」というのを作っている。フランキー・オンラインの中で作って電子メールに貼ることができるんだけど、開いてクリックすると、その人からのメールが表示される。

利用できる端末も、今はパソコンだけど、モデムがつくのであれば、ゲーム機でも利用できるようにするつもりです。すでにパワープレイヤーでは提供することが決まっ

ていて、パワープレイヤーの人しか行けない島を作る予定。ネットボーイという構想もあるんだ。これは、モノクロの「ジュニア・フランキー」が、ゲームボーイみたいな小さい端末で動くというもの。それから通信ジョポート付きのDVDも待ってるし、いろんな端末が入ってくるといいと思う。

編集部から

フランキー・オンラインの島の風景は、私たちの生活スペースと子供の頃に見た絵本の世界が1つに結びついた空間のように見える。そこに、高城氏は安い商品と必要な情報、楽しい話題を流通させようと考えている。フランキー・オンラインがテレビに飽きてしまった人たちやコンピュータ・ネットワークをいまひとつ必要なものとして実感できない人たちの心を捉えることができれば、それは確かに新しいメディアになるだろう。最後に、これから何かやりたいと思っている若い人たちへメッセージを下さいと思ったら、高城氏の口から出てきた言葉は「コンプレッションタイム」。リアルタイムでCGを動かすことや生放送をすることがリアルタイムだとすると、映画やコマーシャルを作ることはロングタイム。この時間を縮めることが、ビジネスチャンスになるという。だから、ネットワークの仕事はまだこれからたくさんあるというアドバイスだ。

入会するには 料金：月500円(2時間まで含む。入会月は5時間まで)。以降1分10円。7月まで無料。インターネットへの接続はさらに1分10円。環境：WindowsやMacintosh用のCD-ROMドライブが必要。モデムは9600以上、マシンは386以上を推奨。接続方法：パソコン通信型でもTCP/IPでも接続可能。インターネット上からも利用できる。アクセスポイントは東京・大阪・名古屋。通信速度はISDN64Kbpsまで。ソフトの配布：CD-ROMは展示会、ダイレクトメール、CD-ROMショップで、3か月に1回バージョンアップ。問い合わせ：online@fpi.co.jpに電子メールを送る。またはFAX 03-5474-7075まで。



カフェはパソコン通信のフォーラムのような場所。メニューから好きなテーマを選んでメッセージの交換ができる。



海底にあるモンキー・ラジオ・ステーションにはミュージックライブラリがあり、インデックスから選んで好きな曲データをダウンロードしたり、自分の作った曲をアップロードしたりできる。



インターネットへの入り口ではWWWブラウザのダウンロードもできる。フランキーオンラインで売っているアメリカ・オンラインのスタックを使うと、ここからアメリカ・オンラインへIP接続し、フルサービスを受けられる。ホームページの登録は無料。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp